

2022年度テーマ別研修

「孤独・孤立の理解と伴走型支援」

NPO法人抱樸 奥田知志

東八幡キリスト教会 NPO抱樸 ホームレス支援全国ネットワーク
全国伴走型支援推進協会 生活困窮者自立支援全国ネットワーク
全国居住支援法人協議会 共生地域創造財団
全国日常生活支援住居施設協議会 日本福祉大学 客員教授

抱樸(ほうぼく)

「ひとりにしない」と言う支援

- 老子の言葉「素を見し樸を抱き」
- 樸＝原木/荒木のまま抱く
- 原木/荒木は無限の可能性を持つ
- 荒木ゆえに傷つく＝絆は傷を含む

伴走型支援の位置 家族機能の社会化

昭和55年（1980年）

家族の風景

第1位



42%

第2位



20%

第3位



20%

2020年（40年後）

第1位



38%

单身増加
家族の不在

第2位



25%

...

第5位



7%

病気の時や日常生活に必要な作業について頼れる人の有無 (国際比較)

(※複数回答)

	60歳以上の単身者が頼れる人 (2015年)				
	別居 家族	友人	近所の人	その他	頼れる人 なし
日本	67.3%	21.1%	15.8%	7.0%	12.9%
米国	55.9%	48.0%	27.0%	9.2%	13.1%
ドイツ	63.3%	46.0%	45.0%	5.9%	6.1%
スウェーデン	58.0%	49.1%	30.1%	9.6%	9.2%

(資料)藤森克彦(2016)「単身高齢世帯(一人暮らし高齢者)の生活と意識に関する国際比較」(内閣府政策統括官(共生社会政策担当)『高齢者の生活と意識—第8回国際比較調査結果報告書』2016年3月)。



地域包括ケアシステムの前提



ここが
ある前
提

すまい・すまい方・生活
支援など生活基盤
がある



医療介護サービスなど
が効率的・効果的に
提供できる



この前提で葉っぱが青々と茂る？
しかし、その前提が無くなったら、弱くなったらどうする？



家族と企業
日本型社会保障の基盤

家族の限界

制度

家族と企業
日本型社会保障の基盤

新たな隙間

制度

家族と企業
日本型社会保障の基盤

新たな隙間

制度

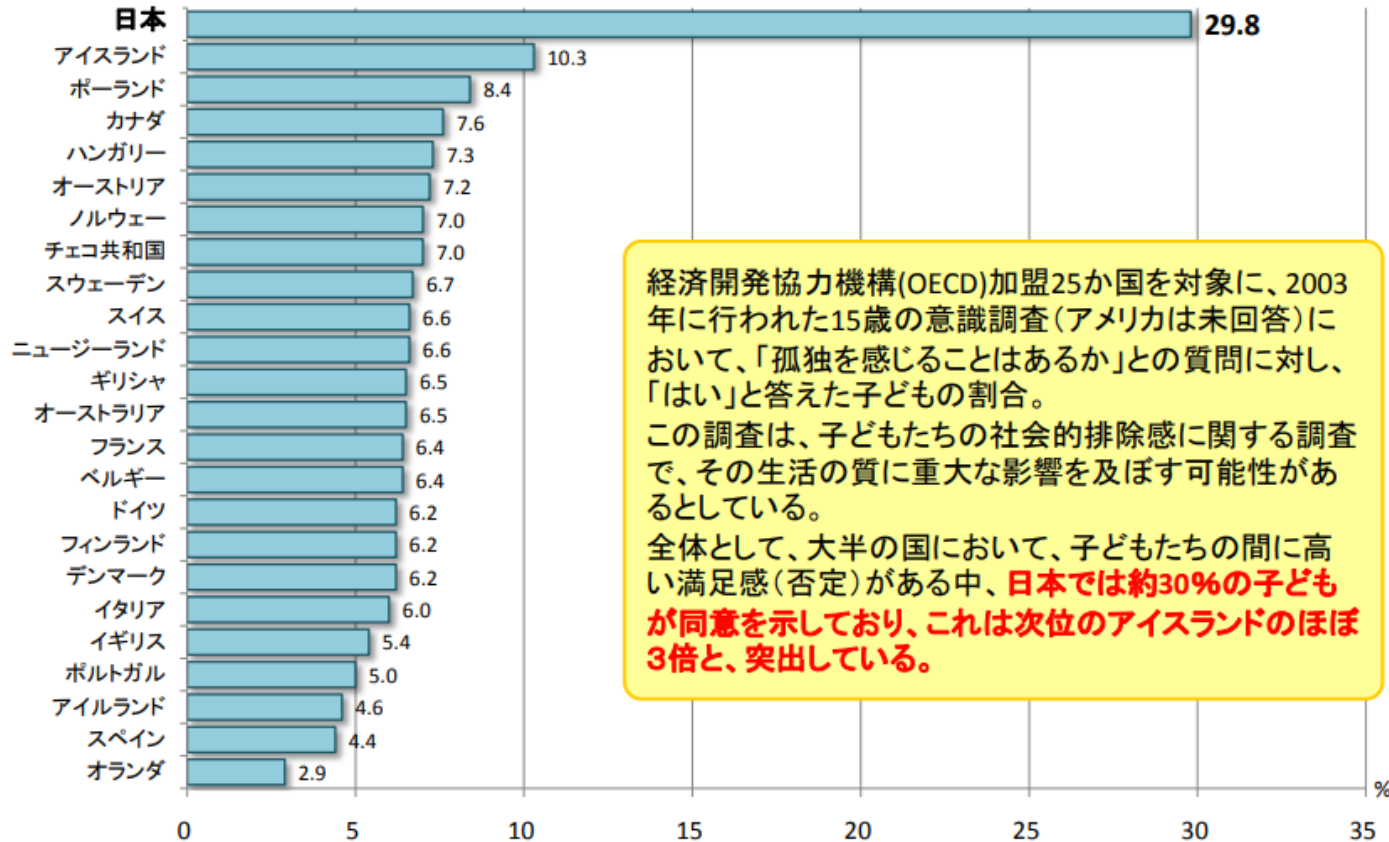
新しい
民間

新しい
制度

孤立の現状

伴走型支援の背景

「孤独を感じる」と答えた子どもの割合



経済開発協力機構(OECD)加盟25か国を対象に、2003年に行われた15歳の意識調査(アメリカは未回答)において、「孤独を感じることはあるか」との質問に対し、「はい」と答えた子どもの割合。
この調査は、子どもたちの社会的排除感に関する調査で、その生活の質に重大な影響を及ぼす可能性があるとしている。
全体として、大半の国において、子どもたちの間に高い満足感(否定)がある中、**日本では約30%の子どもが同意を示しており、これは次位のアイスランドのほぼ3倍と、突出している。**

UNICEF, Child poverty in perspective: An overview of child well-being in rich countries, Innocenti Report Card 7, 2007 UNICEF Innocenti Research Centre, Florence.

■若者の死因【2020年自殺白書】
年代別の死因順位⇒15～39歳
第1位自殺⇒先進国(G7)では日本のみ

■子どもの自殺要因
⇒6割不明
⇒なぜ、「助けて」と言えないのか？自己責任論社会

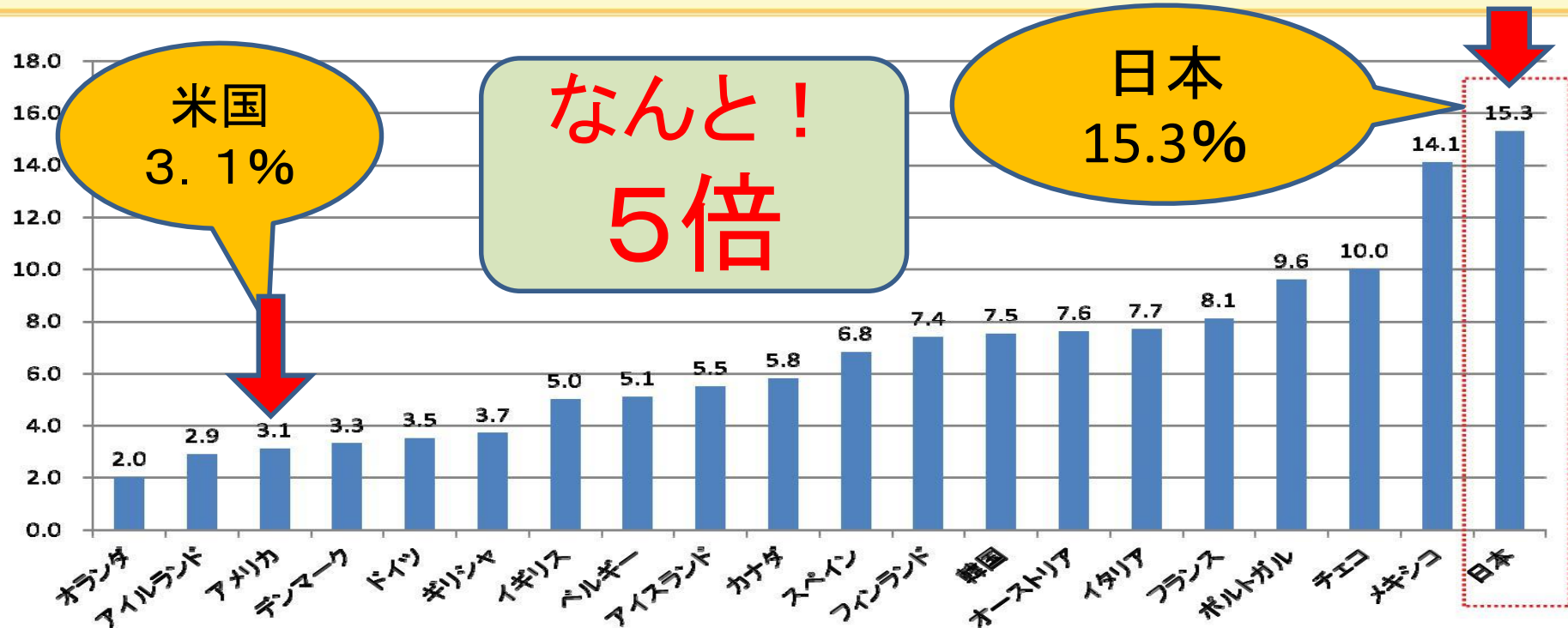
■助けてと言える日常が必要

社会的孤立の調査 OECD諸国の比較

※相対的貧困率(2012年) 米国17.4% 日本16.1%

「家族以外の人」と交流のない人の割合（国際比較）

○ 日本では「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が15.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。



(注)友人、職場の同僚との交流が、「全くない」と

米国⇒金はないが、友達は居る
日本⇒金もないが、友達もいない

「あるいは「ほとんどない」と
Glance:2005 edition,2005,p8

地域共生社会の議論から

(「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ 令和元年 12 月 26 日)

1 地域共生社会の理念とその射程

○日本の社会保障は、他の先進諸国同様に、人生において典型的と考えられるリスクや課題を想定し、その解決を目的として、それぞれ**現金給付**や福祉サービス等を含む**現物給付**を行うという基本的なアプローチの下で、公的な保障の量的な拡大と質的な発展を実現してきた。

日本の社会保障

☞現金給付と現物給付

つながりとケア

☞家族・地域・会社

○その一方で、個人や世帯が抱える**生きづらさやリスクが複雑化・多様化**している。例えば、**社会的孤立など関係性の貧困の社会課題化**、ダブルケアやいわゆる8050問題など複合的な課題や人生を通じて複雑化した課題の顕在化、就職氷河期世代の就職困難など雇用を通じた生活保障の機能低下などの変化が見られている。

☞新しい問題・・・課題の複合化・社会的孤立

☞背景・・・雇用不安定化・家族脆弱・地域崩壊

※社会的孤立の解消・関係の構築＝伴走型支援



小倉将信（おぐらまさのぶ）孤立孤独担当大臣



BS11 4月29日 午後9時
報道ライブ インサイドOUT



NHK教育放映5月14日午後10時
Eテレ ズームバック×オチアイ

コロナ禍による「孤独」への危機感を打破するヒントとは？
第7回「孤独論」5月14日（金）[Eテレ] 後10:00

あなたは一人じゃない!!
孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラム メッセージ集

池田 昌弘
NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長
つながりを切らない！
感染予防と工夫で、家族、友人、近所が気にかける声をかけ合う地域に、見守りや身体活動等を専門職も一緒に広げよう！

栗林 知絵子
NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長
地域の子どもの見守り育てることができるのは、近所に住む地域住民です。
勇気を出して「おせっかい」しましょう。
あなたの一言が、子どもの未来を変えます。

大空 幸星
NPO法人あなたのいばしょ代表
「あなたのせいではありません。」
誰かに頼るのは、恥ずかしいことでも悪いことでもない。
忘しみの果てには幸せがあると思える社会を共に目指しましょう。

奥田 知志
NPO法人抱核理事長
経済的困難と社会的孤立を同時に解消する仕組みが必要です。「この人には何が必要か」と共に「この人には誰が必要か」を問い続ける社会で在りたい。

清水 康之
NPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表
新しいつながりが、新しい解決力を生む。
誰もが命の危機に直面しかねない不安な状況だからこそ、「誰もが生きる道を選べる社会」の実現へ。

米山 広明
一般社団法人全国フードバンク推進協議会事務局長
困ったときはお互い様。
一人で悩まず、声を上げてください。

湯淺 誠
NPO法人全国こども食支援センター・むすびえ理事長
人々はすでに「つながりつづける力」を発揮している

橋 ジュン
NPO法人BONDプロジェクト代表
生まづらさを感じている女の子たちへ。
落ち着かなくて不安な時ISOSを出してほしいよ。
声を聞かせてね。
安心できる心の居場所、一緒に作っていきましょう。

服部 幸應
学校法人服部学園理事長
コロナ禍ではオンラインでもいいので、
週に1回、おじいちゃん、おばあちゃんと共に食事を楽しめませんか。

中川 翔子
歌手・タレント
今はみんなで一つになって協力し合うことが大事。
悩んでること、不安は身近にいる人に打ち明けてよう。
あなたは一人じゃない、手を取り合い繋がりますよ。

出席政府関係者

- ・ 総理大臣
- ・ 官房長官
- ・ 文科大臣
- ・ 厚労大臣
- ・ 国交大臣
- ・ 農水大臣
- ・ 環境大臣
- ・ 孤独・孤立担当大臣

二〇二一年2月25日（首相官邸二階大ホール）
孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラム

二つの困窮

経済的困窮 (ハウスレス)

社会的孤立 (ホームレス)

33年前、炊き出し開始
炊き出しをする意味とは？



いのちを守るため？
少々盛っている感アリ
「ともだちの家に行くのに
手土産一つ持っていかないか？」
ともだちになること

3600人以上が自立👉しかし9割以上が亡くなっても家族は来ない
ともだち👉 出会いから看取りまで・ともだちとは葬式に来て弔辞を言う人

ホームレス支援から見た二つの困窮

1) 路上で…「畳の上で死にたい」

2) 自立後…「俺の最期は誰が看取ってくれるか」

👉「何が必要か」 住居、保証人、職、健康保険、携帯、弁護士

👉「誰が必要か」 心配してくれる人、一緒にいてくれる人、感謝してくれる人

3) 二つの困窮

👉 **経済的困窮**(ハウスレス)

※ハウスとホームは違う

👉 **社会的孤立**(ホームレス)

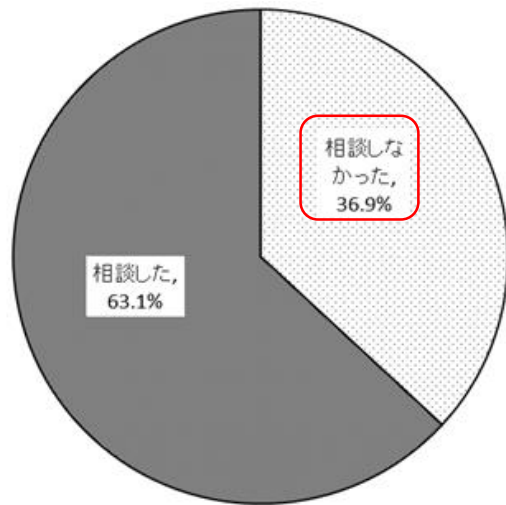
4) ホームレス中学生の現実(ホームレス襲撃事件)

👉「家があっても帰るところがない。誰からも心配されていない。俺はホームレスだからその気持ちわかるけどなあ」

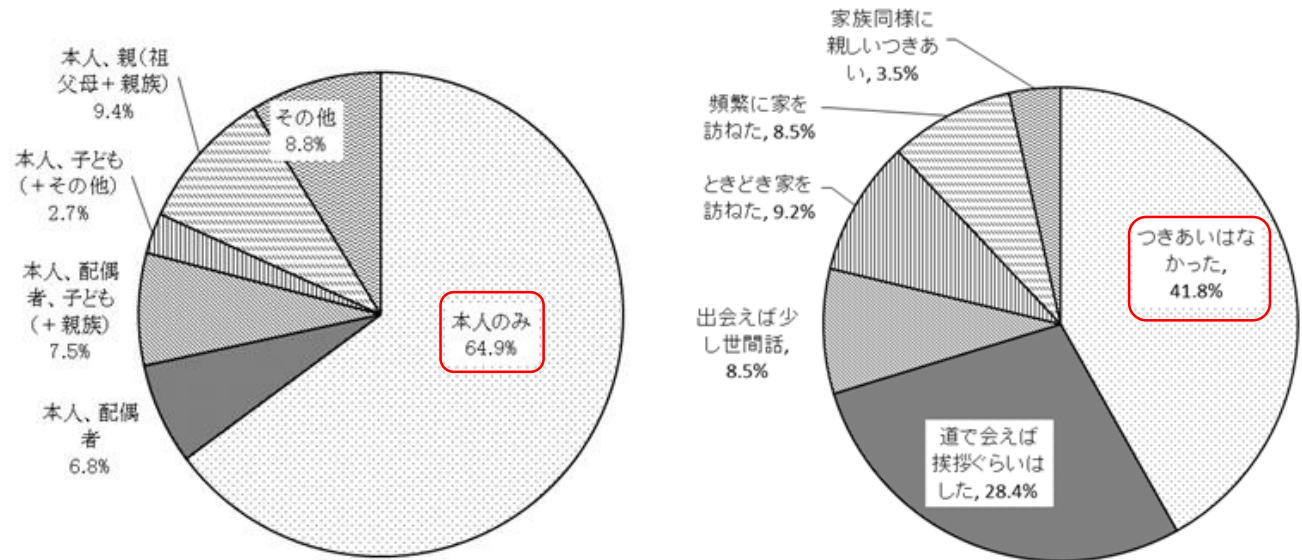
👉 路上の風景の全国化…「時代が路上に追いついた」

「野宿する直前」には社会的に孤立していた

「野宿する直前」時に相談したか



「野宿する直前」の家族形態と近隣関係



注：「相談したいことがあった」と答えた人（野宿者全体の46.4%）の中での比率

出典：稲月正,2006,「ホームレスになるまでの経緯と自立支援の方向性」,山崎克明ほか著『ホームレス自立支援』,明石書店.

出典：稲月正,2006,「実態調査から見たホームレスの生活状況」,山崎克明ほか著『ホームレス自立支援』,明石書店.

支援の両輪

①問題解決を目指す

 解決型支援

②つながり続けることを目指す

 伴走型支援

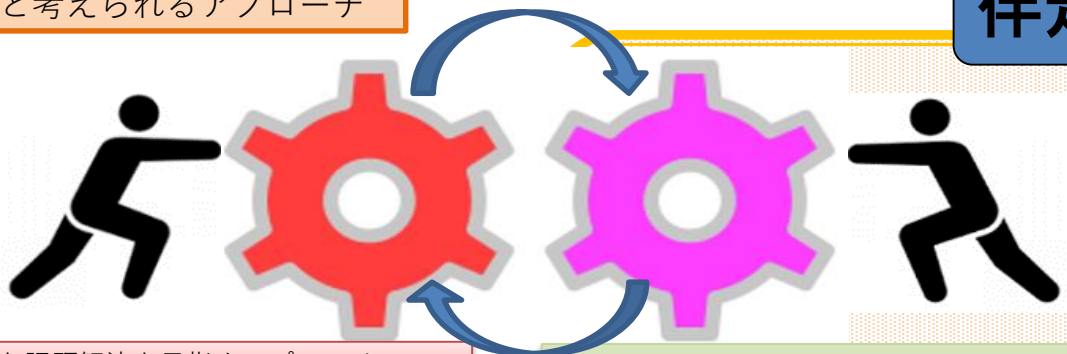
(厚生労働省重層的支援体制整備事業)

抱樸が提唱してきた孤立に着目した伴走型支援が
厚労省の次年度施策に明記された。

対人支援において今後求められるアプローチ

支援の“両輪”と考えられるアプローチ

伴走型支援



具体的な課題解決を目指すアプローチ

- 本人が有する特定の課題を解決することを目指す
- それぞれの属性や課題に対応するための支援(現金・現物給付)を重視することが多い
- 本人の抱える課題や必要な対応が明らかな場合には、特に有効

つながり続けることを目指すアプローチ

- 本人と支援者が継続的につながることを目指す
- 暮らし全体と人生の時間軸をとらえ、本人と支援者が継続的につながり関わるための相談支援(手続的給付)を重視
- 生きづらさの背景が明らかでない場合や、8050問題など課題が複合化した場合、ライフステージの変化に応じた柔軟な支援が必要な場合に、特に有効

共通の基盤 本人を中心として、“伴走”する意識

個人が自律的な生活を継続できるよう、本人の意向や取り巻く状況に合わせ、2つのアプローチを組み合わせる必要がある。

○一人ひとりが多様で複雑な問題に面しながらも、生きていこうとする力を高め(エンパワーメント)、自律的に生きていくことを支える支援
(※)自律・・・個人が主体的に自らの生き方を追求できる状態にあること

厚生労働省令和元年12月
地域共生社会推進検討会議最終まとめ

伴走型支援の効果 物語の創造

孤立のリスクとは？

①「自分自身からの疎外」

- ☞ 人は、他者を通して自分の状態を知る。
- ☞ 自分とは何か、自分の存在意義、さらに自分の状態さえ正確に認識することが困難となり「自己認知不全」を起こす

②「生きる意欲・働く意欲・動機の低下」 ☞ 物語が生まれない

- ☞ 「何のために働くのか」・・・内発的な動機
- ☞ 「誰のために働くのか」・・・外発的な動機
- ☞ 意欲低下は自殺の危険性を高める

③「社会的サポートとつながらない」

- ☞ 良い制度も、知らない、教えてくれる人がいない、つないでくれる人がいないと存在しないと同じ
- ☞ 対処が遅れ問題が深刻化し社会保障のコストも増大する。

第一のスパイラル経済的困窮が社会的孤立を生む(結婚できない)

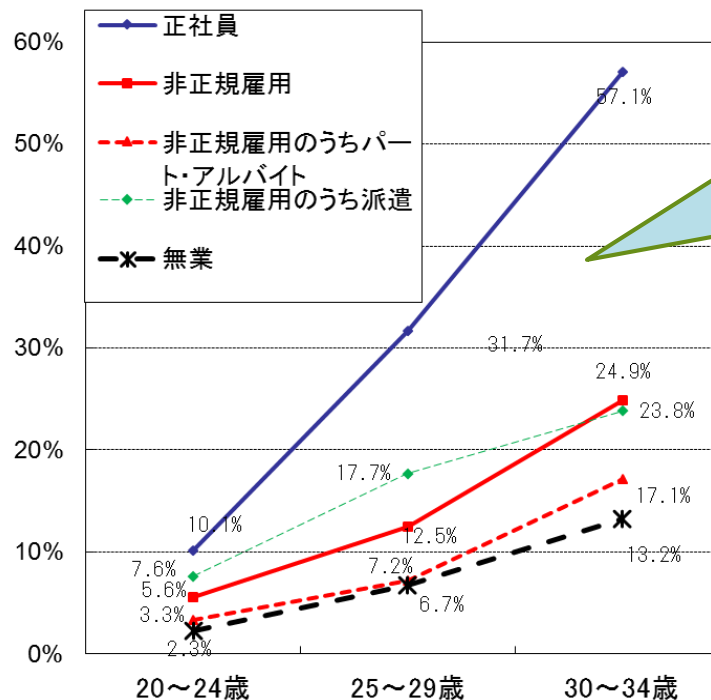
正規雇用と非正規雇用の賃金格差と社会参加

正規雇用と非正規雇用の1人当たり平均給与

	平均給与		
		うち正規	うち非正規
計	408万円	468万円	168万円
男	502万円	521万円	226万円
女	268万円	350万円	144万円

男性の正規雇用と非正規雇用では、年収は半減以下に落ちる

就労形態別配偶者のいる割合(男性)



男性30歳時点正規雇用既婚率約60%。
非正規雇用既婚率25%半減

資料: 国税庁「民間給与実態統計調査」(2012年)

資料: 労働政策研究・研修機構「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状」(2009年)より作成。

👉 金の切れ目が縁の切れ目

第二のスパイラル

社会的孤立が経済的困窮を招く

■他者の存在が生きる意欲や動機付けとなる

■人は、何のために働くのか？

☞お金のため、食べるため

☞内発的動機・・・自分が諦めたら終わり

■人は、誰のために働くのか？

☞愛する人のため

☞外発的動機・・・踏ん張れる

■野宿11年の西原さんが野宿になった理由

☞「考えてみたら母ちゃんが出て行ったことかなあ」

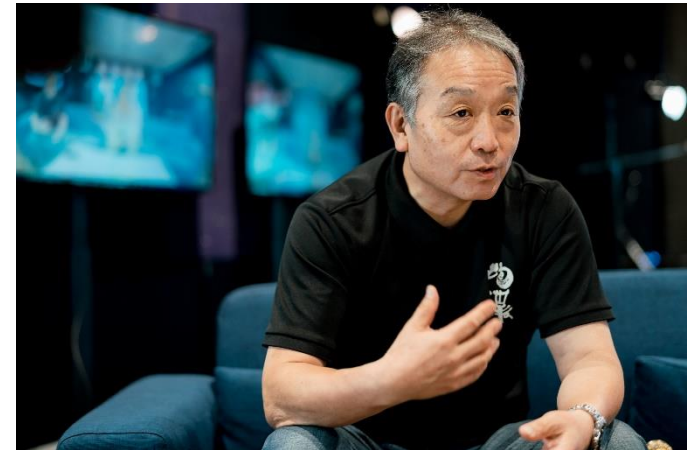
経済的困窮

社会的孤立

※縁の切れ目が金の切れ目



高橋源一郎さんとの対談で つながり、ことば、物語



奥田 つながりや関係が無くなることが問題

高橋 つながりが無くなるということは「ことばを失う」ということですね

奥田 「ことばを失う」ということは「その人の物語」が失われるということです

伴走型支援の効果👉物語の創造

■物(現金・現物)を物語に変える・・・他者の存在

👉ホームレスの食事「エサ」・・・残飯「犬猫と一緒に」

👉しかし炊き出しでもらう物・・・「お弁当」

👉食べ「物」でいうと両者はあまり変わらない

👉しかし、「物」に人が関わることで「物」が「物語」となる

■ある母子家庭のケース

👉何を食べたかは覚えていないが<誰と食べたかは忘れない

※伴走型支援 物を物語に変える支援・自律支援

支援における二つの支領域

伴走型支援
つながり続ける

動機付け

問題解決型支援

名前のある個人として自分の物語を生きる

支援②
自律支援
個人の物語への支援
憲法13条
個人の尊重
幸福追求権
ステージ=日常



生活維持の最低基盤
0地点



支援①
自立支援
最低生活基準の確保
憲法25条 生存権
ステージ=非日常

断らない相談
バーンアウトしないために

「断らない相談」の実践のための「二つの支援論」

社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会報告書（平成29年12月15日）

（断らない相談支援）

「自立相談支援事業のあり方としては、相談者を『断らず』、広く受け止めることが必要であり、生活困窮者自立支援法において、『現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者』とされている生活困窮者の定義のもとで、『断らない』支援の実践が目標とされているが、こうした『断らない』相談支援については、今後とも徹底していかなければならない。」

「また、『断らない』相談を継続するために、相談を受け止める相談支援員がバーンアウトしないよう、スーパービジョンやフォローアップ研修等が必要との意見があった。」

- ☞ 「断らない相談支援」を徹底する
- ☞ 「断らない」ですべての相談を引き受けると支援員がバーンアウトする
- ☞ 相談員がバーンアウトしないように研修を強化する。
- ☞ 「断らない相談」の実現のためには「力のある支援員」の育成が不可欠
※この議論に欠けているものとは何か？

断らない相談がバーンアウトする構造

問題解決型支援のみの相談支援現場

◇相談を引き受ける＝問題解決する

☞結果（解決）が出ないと意味がない

☞処遇の支援

◇しかし問題解決が難しいと思われるケース

☞結果が出ない—相談者も支援員も疲労

☞最初から引き受けない

※クリームスキミング

（収益性の高い分野のみにサービスを集中させ「いいとこ取り」すること）

※問題解決型支援は「主訴」を明確化（アセスメント）し個別支援計画（プラン）を立て実施する。しかし、課題が複合的で主訴が明確でない場合、あるいはご本人の意欲が低下している場合などは早期の解決が困難である。このような前提がない方に対する「もう一つの支援の型」が必要

☞伴走型支援との両輪化

断らない相談のもう一つの型

☞ 伴走型支援の導入

断らない相談ー伴走型支援の場合

断らない=引き受ける≠解決する（できない）
=つながる

☞ 断らないを「解決」ではなく「つながる」と理解する

☞ 伴走型支援における解決=「孤立解消」

☞ 処遇の支援

◇ これからの支援の両軸

1) 問題解決型支援の目的

⇒ 解決

2) 伴走型支援の目的

⇒ つながる・つなげる（伴走そのもの）

専門職の役割

つなぎもどしと地域連携

伴走型支援における専門職の働き

① 「つながる」

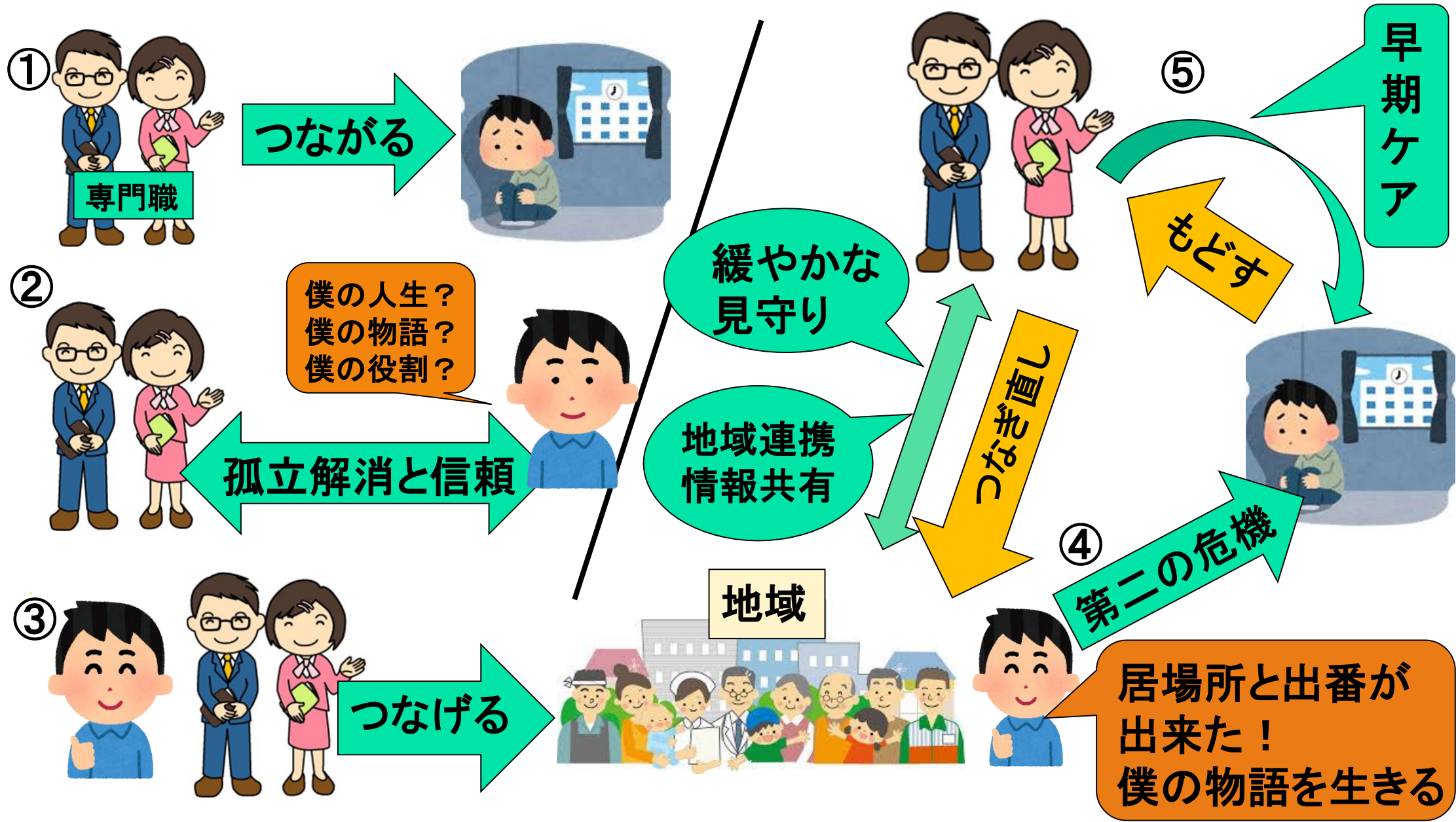
- ☞ 「助けて」と言わない、言えない人へのアプローチ
- ☞ 孤立の壁突破のための知識や技術
- ☞ 信頼の構築のために必要なもの・・・技術と心（伴走の意識）

② 「つなぐ」

- ☞ 「つながり」を抱え込まない
- ☞ 「つなぎ」先の社会資源、地域、キーパーソンの確保と形成
- ☞ 「対個人」と「対社会」

③ 「もどし」と「つなぎ直し」

- ☞ 不安定な社会・・・第二の危機、第三の危機は前提
- ☞ 「つなぎ」後の俯瞰的な「緩やかな見守り」
- ☞ 地域との連携の常態化（情報交換）
- ☞ 本人や「つなぎ」先に問題が生じた時、早期に「もどす」
- ☞ 早期発見・・・予防的対応
- ☞ 本人の意向を元に「つなぎ直す」



○ **多機関協働事業**  **社会資源・各種制度とのつながりを増やす**

実施内容：市町村全体で包括的な支援が行われるよう支援関係機関等の調整機能を果たす

- ・ 複雑化・複合化した事例に対応する支援関係機関の抱える課題の把握や、支援関係機関の役割分担、支援の方向性の整理を行う。
- ・ 支援終了後、支援の主担当となる機関を設定し、本人や世帯に伴走する体制を確保する。

○ **参加支援事業**  **本人とのつながりを増やす**

実施内容：本人の自律に向けて、本人と地域社会とのつながりを作る。

- ・ 個人の自律を叶えるため、柔軟な社会参加の実現に向けた支援を行う。
- ・ 地域社会とのつながり作りに向けて、本人や世帯のニーズや抱える課題などを丁寧に把握、地域の社会資源とのコーディネートやマッチングを行う。
- ・ マッチングした後も、本人の状態や希望にそった支援が実施されているかフォローアップする。

○ **地域づくり事業**  **相互的なつながりを増やすための仕組みづくり**

実施内容：地域の中で、つながり支えあう取組が生まれる環境整備を行う。

- ・ 共同体機能が脆弱化する中、人と人、人と資源がつながり支え合う取組が生まれやすい環境を整える。
- ・ 顔の見える関係性や気かけあう関係性が地域で生まれやすくなるよう働きかけていく。

伴走型支援のポイントはつながりの量を増やす

伴走型支援における注意すべき点

①問題解決をおろそかにしてしまう

- ☞ 二つの支援は機能であって役割ではない
- ☞ あくまで支援の両輪であり二者択一ではない

②個人的関係に埋没する

- ☞ チーム支援が原則
- ☞ 抱え込みを防ぐ
- ☞ 伴走する地域(受け皿)の創造が必要
- ☞ 量の確保

③成果がわかりにくい

- ☞ 「つながり」や「孤立」に関する客観的指標がない
- ☞ 特に費用対効果に関する検証が困難。行政の評価困難

④伴走を手段とのみ見なし「つながり」の価値を見出せない

- ☞ つながりそのものがセーフティーネットであることの認識



ご清聴ありがとうございました。